

招 集 期 日	平成 3 0 年 1 0 月 1 7 日 (水)		会議の場所	教育委員室
会議の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 1 時 3 0 分	開 会 者	教 育 長
	閉会の時刻	午後 2 時 2 0 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	平 野 博 之 委 員	出 席	
柿沼拓弥教育長職務代理者	出 席	岩 崎 智 子 委 員	出 席	
高 瀬 賢 一 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説明のための出席者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	須永教育総務課長	細村学校教育課長
	小島学校給食センター所長	岡田生涯学習課長	水野スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会		10 月定例教育委員会を開会		
日程第1 前回会議録の承認	教育長	教育委員会の会議は公開が原則となっているが、出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決した場合は非公開とすることができる。本日の日程のなかで非公開とすべき案件はないため、全て公開としてよろしいか。		
		異議なしの声あり		
	教育長	9 月定例教育委員会の会議録について諮った。		
		異議なしの声あり		
	教育長	9 月定例教育委員会の会議録は、承認された旨宣した。		
	教育長	第 2 回臨時教育委員会の会議録について諮った。		
		異議なしの声あり		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 報告事項1 平成30年9月定例市議会提出(教育委員会関係)議案等について</p>	教育長	<p>第2回臨時教育委員会の会議録は、承認された旨宣した。</p>
	教育長	<p>報告事項1について学校教育部長と生涯学習部長から説明を求めた。</p>
	生涯学習部長	<p>中島直樹議員から平成29年度羽生市一般会計歳入・歳出決算に対し議案質疑があった。</p> <p>「平成29年度一般会計予算の提案理由説明の中で『外国の方にも開かれたまちになるように地域の皆さんと考えていきたい。』とあったが、具体的に何が行われたのか。」については、平成29年度は、平成27年度にスタートした「岩瀬グローバルタウン構想」に合わせ、事業に取り組んでおり、その中の一つとして、市民が英語に対する興味を持つきっかけとなるよう、岩瀬公民館において「岩瀬ちょっとだけ英会話講座」を開催した。岩瀬小学校では「グローバルスクール」として特別の教育課程を編成し、グローバル化に対応した英語教育を実施している。そのほか、昨年は地域住民にまちづくりのビジョンについて理解してもらうため、埼玉純真短期大学を会場に「岩瀬グローバルタウンセミナー」を開催し、今年度は、自治会が主体的に実施した「西ウイング羽生グローバルタウンフェスティバル」において、様々な催しで外国の方との交流を図るなど、地域が一体となって事業に取り組んだ。また、昨年度末には、岩瀬地区の関係者と市の連携により「岩瀬グローバルタウン構想推進委員会」を組織し、現在、「まちづくり作業部会」と「ひとづくり・地域づくり作業部会」に分かれ、互いの文化を尊重し、共生できるまちづくりのための施策を検討している旨答弁した。</p> <p>「2020年、東京オリンピック・パラリンピック関連事業の推進として、事前キャンプ地誘致等の具体的な活動内容」については、国際交流の推進を図るため、姉妹都市のあるフィリピン共和国やベルギー王国を中心に東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地の誘致活動を進めており、昨年5月に市長、スポーツ振興課ほか3名でベルギー</p>

会議事件名	て ん 末	
	<p>学校教育部長</p>	<p>王国のデュルビューイ市を訪問し、事前キャンプ地としての羽生市への訪問やオリンピック・パラリンピック終了後におけるスポーツを通じた国際交流についての提案をした。また、6月には、県主催のベルギーオリンピック委員会のレセプションに招待され、市長とスポーツ振興課長が出席し羽生市のPRを行った。さらに、8月には同じく県主催のASEAN 諸国大使等歓迎レセプションに出席し、PR ブースを設置して観光や事前キャンプのPRをした。また、ホストタウンの登録については、前述のPR活動を行った実績を踏まえ、昨年10月に申請した。東京オリンピック・パラリンピックの開催まで、あと2年を切ったが、事前キャンプ地の誘致とスポーツを通じた国際交流の実現に向けて、引き続き調整を進めていく旨答弁した。</p> <p>中島直樹議員から平成29年度羽生市一般会計歳入・歳出決算に対し「29年度新事業『全国プレゼンテーションコンクール』の効果の検証と今後の見通し」について議案質疑があった。市内小中学校のプレゼンテーションコンクールに向けての取り組みをいくつか紹介し、参加生徒の感想から本コンクールの目的が達成できていることを説明した。今後、第2回全国プレゼンテーションコンクール in 羽生について、実行委員会において、昨年度の課題を含めて検討し、よりよい開催の在り方について改善しながら準備を進めていくことを答弁した。</p> <p>本田裕議員から「側溝蓋設置による通学路の安全確保について」一般質問があった。「藤井上組東部地区内通学路の現状をどのように把握しているのか」については、当該通学路においては、今年度の安全点検でも注意が必要な場所として学校から報告があった通学路であり、学校が安全確保について指導を続けており、今後子どもたちに指導を繰り返し行うよう、教育委員会としても指導したこと説明した。「市内の学童の通学路の安全対策の取組」については、毎年6月の通学路安全点検に加え、5年に一度の「通学路総点検」も実施しており、今年度は国の3省1庁から依頼があった「通学路における緊急合同点検」も現在実施していることを説明した。今後も学校・関係機関と連携して点検を実施し、児</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>童・生徒への通学指導と地域と一体となった通学路における安全対策に努めていくことを説明した。</p> <p>永沼正人議員から「羽生市における空き教室の活用について」一般質問があった。「羽生市における余裕教室の現状・転用の事例について」は、今年度の余裕教室は小学校6校・31室、中学校は3校・20室あるが、完全な空き部屋ではなく約半数は少人数指導教室・特別活動室などとして活用され、残り半数は、資料室・会議室等の用途で全て使用されている。また、文部科学省より「余裕教室の更なる有効活用について」通知があり、市内でも羽生北小学校及び川俣小学校の余裕教室を学童保育室に転用、活用していることを説明した。「未だ学童保育室が設置されていない学校において、今後、余裕教室を学童保育室に転用できないか」については、羽生南学童保育室を、平成31年度より羽生南小学校校舎内の余裕教室に移す計画であり、引き続き子育て支援課と連携を密に図っていくことを説明した。「余裕教室を社会教育施設(地域の高齢者の交流や生きがいの場)へ転用できないか」については、メリットはあるものの、学校運営に支障がないようにするため、配慮すべき事項が考えられ、エアコン設置やバリアフリー化など施設の改修も必要であり、市民のニーズ、学校運営の影響などを勘案し、転用が可能かどうかを総合的に検討していきたいと考えていることを説明した。「今後の羽生市の余裕教室に対する取組、将来の計画等について」は、羽生市公共施設等総合管理計画では、「人口動向や地域の年齢構成も踏まえた適正な設置配置や、地域ごとに立地している施設との複合化を検討します。」となっており、学校や地域の実情に応じて、関係部局と連携・協力の上、学校施設の有効活用を図ることを説明した。</p> <p>保泉和正議員から「中学生の進路指導と進学先との連携について」一般質問があった。「進学状況の数値についてどのように評価しているのかについて」は、中学校の管理職や担任の教員、PTA、教育委員会は、生徒個々の進路決定に至る3年間の取組と夢の実現に向けた進路決定ができていくかを評価し</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>ており、進学状況の数値に関する評価として、学科別・全日制や定時制別などの進学人数をとりまとめ、年度の傾向について把握していることを説明した。「進路選択は保護者と先生でいつ頃どのように話し合われ決定されているかについて」は、進路選択に向けた保護者説明会等、夏季休業中に学校で行われる、生徒本人・保護者・学級担任による三者面談があり、10月には進路説明会として受験手続等の説明会を開催し、10月から11月に行われる三者面談においては、具体的な受験校や受験計画を確認し、その後二者面談や三者面談、家庭訪問を行うなど受験の直前まで個別の対応を行い、進路決定していくことを説明した。「進学後の生徒の状況把握および進学先との情報交換はどのように行っているかについて」は、6月から7月頃に、各高等学校の教員と卒業生の様子について情報交換をしていること。卒業生が来校した際に状況を把握していること。羽生市学校警察連絡協議会において、進学後の生徒の状況について情報交換を行っていることを説明した。「途中退学者に関する状況をどのように把握し、進路指導にどう役立っているか、また、情報交換等の環境づくりについて」は、中途退学者に関して、高等学校から中学校への正式な報告は、高等学校側の個人情報取扱規程によりないが、中学校では国や県の中途退学者統計結果により、課題を把握し、中途退学者を出さないようにするため進路指導に活かしていることを説明した。また、中学校進路担当者が高等学校に頻繁に行くことは難しいが、個別の対応で高等学校へ出向くことがあり、埼玉県教育委員会主催の東部地区進路指導・キャリア教育研究協議会でも中学校と高等学校の進路担当者が一同に会して協議と情報交換を行っていることを説明した。そして、「羽生市教育委員会が情報交換等の環境づくりの指針を打ち出すことについて」は、「埼玉県公立高等学校入学者選抜について」の要項をもとに進めるよう各中学校を指導しており、市独自の指針を打ち出すことは難しい状況であることを説明した。「公立高校の再編や学級減などの対策についての教育委員会の見解について」は、公立高等学校の再編や学級減等については、県教育委員会の動向を見守っていきたいと考えていることを答弁した。</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>丑久保恒行議員から「2020年に向けての英語力UP対策について」一般質問があった。「羽生市の中学校の英語力の現況について」は、「埼玉県学力・学習状況調査」の結果、中学2年生と中学3年生を合わせた平均で比較すると、6.1%から3.75%と縮まり、英語力が向上しているものの、県平均には達していないのが現状である。英語力の伸びをはかる指標が、埼玉県の平均が「4」に対して羽生市の平均は「5」となり、今年度の市内の中学校の英語力は一人一人の個の伸びに着目すると県平均を上回って伸びていることを説明した。「海外派遣に参加した生徒は、どのように受け止め、どのような思いを持ったかについて」は、「自分の思いを英語でうまく伝えられない」、「相手の話している内容が理解できない」という場面もあり、「もっと英語力を高めたい」と感じた生徒が多くいたことを説明した。「海外派遣に参加した顧問や先生方の思いについて」は、随行教員達が積極的に英語でのコミュニケーションを図って友好的な関係を築く姿を見せることで、生徒たちの「英語で話したい」という意識が高まったことを説明した。「これまでの成果や今後をどのようにとらえ、進めていく考えなのか」については、前回の派遣後に、羽生市プレゼンテーションコンクールで海外派遣で得た貴重な体験をプレゼンテーションした生徒がいたことや、中学校や小学校、村君英語村の友遊プラザなどでも、その経験を発表した生徒がいた。今後も派遣生徒だけのものとせず、多くの児童生徒が共有できるような機会をつくっていきたいと考えていることを説明した。「ALTの増員計画について」は、新学習指導要領全面実施に向けて、市内小学校全校に1名のALTが月曜日から金曜日まで、常駐できるような計画を検討していること、市内中学校はこれまでどおり、1名のALTの常駐を考えていることを説明した。「東京オリンピックに向けて、英語力アップ・プログラムが用意され、ベルギー王国・フィリピン共和国、両国との人と人との交流に、花を添える工夫が加えられているかどうかについて」は、岩瀬小学校のグローバルスクールとしての取組や、岩瀬地区での取組、村君小学校や村君地区での取組を紹介し、積極的に他の国の人々を受け入れ、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、少しでも英語への敷居を低くすることで他の国々の方々と積極的に交流できる環境づくりを進めていくことを説明した。「児童や生徒に対して東京</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>オリンピック時に、授業の一環として、更なる英語力アップにつながるカリキュラムを用意しているか」については、埼玉県教育委員会主催の「小学校教員英語指導力養成講座」の研修内容を基にした「校内研修実施計画書」を学校ごとに作成中で、講座の受講者が中心となり研修を実施する予定であること、村君小学校と岩瀬小学校の授業実践やALTの効果的な活用について、引き続き積極的な情報発信を行い、ALTを活用した研修会を計画的に行っていくことを説明した。また、中学校では「東部教育事務所学力向上サポート」や「埼玉大学教育学部附属中学校との連携協定」を実施しており、教員の英語の授業力向上にも取り組んでいることを説明した。教育委員会としては、羽生版の英語力UP資料集、例えば「オリンピックに向けた会話集」などを作成し、児童生徒に配布し授業等で活用することを答弁した。</p>
報告事項2	教育長	報告事項2及び3について、生涯学習課長から説明を求めた。
北埼玉地区PTA連絡協議会役員等研修会兼羽生市PTA連合会家庭教育研修会の結果について	生涯学習課長	<p>北埼玉地区PTA連絡協議会と羽生市PTA連合会の主催において、9月27日に羽生市産業文化ホールにて開催した。内容は、株式会社感性リサーチ代表取締役の黒川伊保子氏を講師として迎え、「脳育ての黄金ルール～脳を最大限に活性化する育て方～」をテーマに講演をいただいた。脳機能論という新たな観点から家庭での子育てや男女の脳の違いについて、ユーモアを交えながらの講演で、アンケートでは9割以上から好評の声があった。参加者は、北埼玉地区の各校PTA会員で、参加者数は教職員を含め加須市102名、行田市55名、羽生市160名、合計317名、講演中の託児サービスも準備し、3名の利用があった。PTA会員である親同士の交流の場、学びの場として家庭教育における教育力の向上に繋げるため、今後も継続して開催したいと考えている。</p>
報告事項3 第21回羽生市吹奏楽フェスティバルの結果について	生涯学習課長	<p>10月7日に、羽生市産業文化ホールにて開催した。入場料は無料とし、入場者数は1,285名であった。出場団体は13団体であり、東京アカデミック管弦楽の原田照久氏より、「昨年に比べ全体的にレベルが上がり素敵な音を聞くことができた」、「出場者が同じス</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>ステージと一緒に演奏する合同演奏がとても良い企画だと思う」「事前に合同演奏の為に練習の機会を設けたら、さらにいい演奏になると思う」との講評をいただいた。当日は天候にも恵まれ、多くの来場者に吹奏楽の演奏を楽しんでいただくことができた。また、運営においては、各団体の指導者及び出場者から協力を得て、合同演奏を通して貴重な団体間の交流の場となった。課題としては、舞台設営係の間の連携や借用楽器の共有がスムーズにできなかった為、次回は事前調整を綿密に行い、運営係の人数も見直したい。</p>
	教育長	<p>報告事項4から6について、スポーツ振興課長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項4 平成30年度 ニュー スポーツ出前教室の 開催について</p>	スポーツ振興課長	<p>スポーツ推進委員が各地区の小学校体育館などに出向き、ニュースポーツの指導等を行う教室である。11月3日から12月22日までの期間で計10回開催する。今年度も健康づくり推進課の協力を得て、羽生市健康チャレンジ指定事業の一環として健康に関する講話を行うと共に、ムジナモン体操と羽生市スポーツ推進委員会考案したパスラグビーの紹介と体験を実施する予定である。</p>
<p>報告事項5 第34回羽生市綱引選 手権大会の開催につ いて</p>	スポーツ振興課長	<p>12月9日に羽生市体育館にて開催予定である。今回で第34回を数え、チーム編成は、一般男子の部、一般女子の部、小学生の部の3部に分かれ競技を行う。表彰は上位3チームの他、敢闘賞・ねばり賞・監督賞・ファッション賞などの「楽しい各賞」を用意し、大会を盛り上げる予定である。ユニークなコスチュームに身を包み、ファッション賞を狙うチームもあり、毎年楽しい大会となっている。</p>
<p>報告事項6 第36回羽生市教育長 杯争奪中学野球大会 の結果について</p>	スポーツ振興課長	<p>大会を通じ、参加校のチームワークと技術の向上を図ると共に、近隣野球部の交流を深めることを目的とし、羽生市スポーツ少年団野球部会を主管として9月8日、9日の2日間に渡り開催した。市内3中学校と加須市・行田市・さいたま市から5校を招待し、</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項7 その他		計 8 チームで試合を行った結果、さいたま市立大谷場中学校が 4 連覇を飾り、準優勝は羽生市立西中学校、第 3 位は羽生市立東中学校と羽生市立南中学校であった。個人賞は、最優秀選手賞と優秀選手賞がさいたま市立大谷場中学校、敢闘賞は羽生市立西中学校の選手が受賞した。羽生市スポーツ少年団野球部会及び参加校の協力のもと、スムーズな大会運営を行うことができた、また、市内 3 中学校に加え、県内の強豪校を含む市外 5 校の参加により、全試合において熱戦が繰り広げられた。
	教育長	その他の報告について求めた。
	図書館長兼郷土資料館長	県教育委員会の協力のもと、10 月 27 日から 12 月 2 日までの期間で、郷土資料館にて企画展を開催する。羽生市内で多くの考古資料が発掘調査などによって見つかっており、今回は屋敷裏遺跡から出土した口琴や須恵器などを中心に、旧石器時代から近世までの幅広い時代の考古資料を紹介する。また、関連講座として、11 月 4 日に公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団の富田和夫氏を招き、「新発見と謎に満ちた羽生の遺跡―屋敷裏遺跡を中心として―」と題した講演会を開催予定である。その他、11 月 18 日には、郷土資料館職員による展示解説会も開催を予定している。
	教育長	報告事項に関して質問・意見を求めた。
	柿沼委員	プレゼンテーションコンクールは知り合いの保護者達からも大変良い評判を聞いているが、市議会議案に対する中島議員の質疑については、どのような経緯で出たものなのか伺いたい。
学校教育部長	質疑の趣旨の 1 点目は、教職員が準備や指導で大変なのではないか、というもので、2 点目は、一部の児童生徒だけが取り組んでいて全体の教育になっていないのでは、というものであった。	

会議事件名	て ん 末	
	柿沼委員	<p>高校生の英語による全国ディベート大会というものがあり、埼玉県内の高校も参加し、優勝している。先生方の負担が大きくなり過ぎないように配慮して、是非今後も続けていただきたい。</p>
	平野委員	<p>羽生市スポーツ推進委員会考案の「パスラグビー」とはどのようなスポーツなのか。</p>
	スポーツ振興課長	<p>ラグビーが基になっているが、歩いてパスを繋ぎ、タックルはなしで、小学生が使う小さいラグビーボールを使用する。子どもから高齢者まで安全に楽しめるよう、ルールをアレンジして作った競技である。</p>
	柿沼委員	<p>市議会での丑久保議員からの一般質問に対する答弁中で挙げた、「埼玉大学教育学部附属中学校との連携協定」とはどのようなものか。</p>
	学校教育課長	<p>今年の3月26日に埼玉大学附属中学校と羽生市教育委員会で連携協定を結んだ。具体的な内容は、埼玉大学附属中学校からの指導者に、優先的に羽生市に来ていただくこと、また、羽生市も埼玉大学附属中学校の研究協議会に教職員を派遣することであり、教職員の資質・能力の向上、授業力の向上を目指したものである。</p>
	教育長	<p>これは、「羽生市の子どもたちの学力向上」に繋げるための取組である。埼玉大学附属中学校の先生方は、文部科学省から最新情報をより早くキャッチしたり、新たなチャレンジをして素晴らしいノウハウを持っている。埼玉大学附属中学校は、研究校でもあるため、羽生市の教職員に情報提供していただいたり、授業を見て改善の指導をしていただいたりすることで、お互いがより良くなるという連携協定を結んだものである。</p>
	平野委員	<p>埼玉大学附属中学校の先生は、子どもたちに直接教えるのではなく、先生方への指導をするという理解でよろしいか。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 協議事項1 羽生市入学準備金貸付 条例施行規則の一部を 改正する規則について</p>	学校教育課長	その通りである。今年度は、教職員に対する指導であるが、今後は、研究を深めていくために埼玉大学附属中学校の先生に模擬授業をしていただき、羽生市の先生が参観するスタイルの研修会を行うことも検討していきたい。
	高瀬委員	2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致については、実現の見込みはどのようなようであるか。
	生涯学習部長	様々な人脈を使い頑張っているが、施設が整っている場所でない、なかなか難しい状況である。しかし、PR活動はしっかりしていきたい。
	岩崎委員	吹奏楽フェスティバルを拝見させていただいた。出場者が発表する場を得て、目標を持って頑張って練習する良い機会だと感じた。プログラムの中でも合同演奏は大変見物であり、出場者同士が刺激を受け、お互いを高める効果があると思う。
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育長	協議事項1について学校教育課長から説明を求めた
	学校教育課長	<p>当該規則の本則と様式に文言の齟齬が生じたため、改正を行うものである。具体的には、本則では「連帯保証人」と規定した部分に対応する様式第1号、3号、5号において、「保証人」と記載されていた部分を修正するものである。</p> <p>教育長</p> <p>協議事項について質問・意見を求めた。</p> <p>特になし</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	協議事項1については、よろしいか。 異議なしの声
	教育長	協議事項1は、承認された旨宣した。
	教育長	次回教育委員会日程について、事務局より説明の旨。
	教育総務課長	11月定例教育委員会は、11月21日 午後12時30分より、学校給食センターにて開催する。
	教育長	閉会を宣した。 教育長 _____ 委 員 _____ 委 員 _____ 書 記 _____